



# 創造力

陶芸家

## 小割哲也さん

(富士宮市)

自然釉小割哲也作陶展

松坂屋静岡店  
20〜26日

# わびしさを、歲月土に宿す

富士山を眼前に仰ぐ富士宮市の丘の中腹。陶芸家の小割哲也さん(51)が構える工房「無心窯」から、ジャズの小気味いいリズムが響く。「緩急や強弱が創作に通じるように感じる。手を動かしている」と完成品が見えてくる。「湧き立つ感性を漂わせながら、明治大で建築設計を学んだ理系肌。卒業後に日本料理の板前を経験し、自作の器に盛り付けたいと思い付いて陶芸の道に足を踏み入れた。長い歴史を持つ焼き物を現代的

な視点で見つめ、抽象的な造形に個性を見いだす。素材が持つ力を引き出し、土と灰の反応を探り、試行錯誤は多角的。「設計で身に付いた思考は、仕上げるまでのプロセス構築や方法論に生きている。難しい形も工夫しながら具現化できるように「た」。色やデザインに変化を加えて作品と向き合う。整った形の花器やオブジェ

はあえて傷や裂け目を見せ、岩の合間から廃虚が現れたようなわびしさを印象に残す。人工物の風化を表現した創作は歲月の概念を取り込み、日展特選など大きな栄誉も手にしてきた。

家は展覧会に育てられることを自覚し、個展でも土の表情にバリエーションを持たせるなど挑戦を欠かさない。県工芸家協会会長を務め、異分野の作家にも敬意を払う。「今日より良い物を作りたい」と思うのは皆同じ。満足できる物を作りながら、さらに高みを目指していく意欲を共有したい」(文化生活部・宮城徹)



わびしさを込めた陶芸を創作する小割哲也さん。試行錯誤は多角的だ  
＝富士宮市の無心窯(東部総局・山川信哉)

「ニコールクラブ静岡支部  
第13回写真展」  
静岡・ギャラリーえざき 21～26日



「夕闇に乗る」  
に雲が出た  
り、1週間  
待ってもオ

昨年末、天竜浜名湖鉄道の沿線を1白かけて撮影していました。二俣川付近の撮影を最後に片付けようとしたら、電車の音が聞こえて夢中でシャッターを切りました。連が味方してくれた一枚です。

10月に合えなかつたり。それでも、写真は今まで気付かなかつたものにも目が向き、新鮮です。2年前にニコールクラブに入会しました。月1回の例会で仲間から刺激を受け、講師の評も励みになっていきます。息の止まるような素晴らしい景色を粘って撮影したいと思います。(鈴木章弘)

ニコールクラブ静岡支部 2009年にニコン製カメラ愛好家で結成。会員は、山本田鶴子支部長はじめ、静岡市内を中心に18人。

遠江桜二夕組展  
クリエート浜松 27～31日



「翔」

浜松市立可美中の1年生です。展覧会に出す作品を考えているとき、いろんな字が載っている本を見ていて、かっこいいと思ったのが「翔」の字です。

2年前、今通っている林田二夕先生の書道教室の作品展に行ったとき、書を見て「かっこいい」「楽しそう」と思ったのが書道を始めたきっかけです。今は毛筆が準4段、硬筆が初段。もっとうまくなりたいです。  
◇ (玲音(鈴木玲衣))  
遠江桜二夕書院 書家の林田さんが浜松市西区の教室で指導している。5歳〜60代まで、同市内の約15人が在籍する。